

松波小学校だより

第6号
令和5年10月27日
能登町立松波小学校

体験的に学ぶことにより培われる心の力

コスモスが咲き、金木犀が香る秋らしく過ごしやすい季節となりました。

松波小学校では、校内マラソン大会、4年生の能登町器械運動交歓会を控え、児童が練習に励む様子を見て、まさにスポーツの秋を実感している毎日です。

しかし、松波小だけでなくこれまで勤務してきた学校の児童の様子を考えると、運動が得意な子と苦手な子、運動をよくする子とそうでない子の二極化傾向が顕著になってきているような気がします。その要因は様々ですが、子どもを取り巻く環境の変化、とりわけ「時間」「空間」「仲間」の三つの「間」の減少が考えられます。友だちと遊ぶ時間や屋外で遊ぶ場所がない、室内遊びやコンピューター・タブレットでの一人遊びが増えていることなどが多くなってきている昨今の子ども事情です。

松波っ子は、現在マラソンの練習、4年生は器械運動の練習に励んでいます。練習をしている子どもたちから「体験的に学ぶことにより培われる力」を強く感じるときがあります。その力とは「精神力」「忍耐力」「集中力」「あきらめない」「レジリエンス」等であり、体験という人の根本・根底で考え学ぶということから得られる力だと思います。また、そのような体験から獲得する力は揺るぎない力ですから、難問に直面した時に応用がききます。また大会や交歓会で目標が達成できれば自信になります。自信は、やればきっとできるという力につながります。

しかし、当然ながら全ての子どもたちがあきらめないで努力できる訳ではありません。子どもたちがあきらめないで努力するためには、何より「好き」にさせることであり、良い流れをつくるのが大切だと思います。「取り組んでみる→がんばった・できたことをほめる→さらに取り組む(続ける)→できるようになる・上達する→好きになってくる→もっとほめる→成果を感じられるようになる→ますます好きになる」私たち大人は、子どもたちをこの良い流れに導き、循環させてあげることが大切な役割になるのではないのでしょうか。

能登町立松波小学校

校長 宮本 秀人

研究発表会が開かれます！

11月14日(火)に松波小学校で令和5年度 石川県教育委員会指定「いしかわ道徳教育推進事業」の研究発表会があります。道徳の研究テーマを「自ら学び心豊かに生きる健やかな児童の育成」とし、「豊かな心を育む道徳教育を求めて～レジリエンスを高める Build resilience～」を副題とし現在研究を進めているところです。

発表当日は、能登町内外の先生方に道徳の授業を公開して、教育活動の様子を見ていただきたいと思っております。尚、授業参観ではありませんが、保護者の皆様も参観可能です。ぜひ、道徳の授業の様子をごらんください。